

効果のあるサンドライを生産するために

下呂営林署 七宗担当区主任 ○松 嶋 克 彰
〃 製品処分係 住 靖

1. はじめに

下呂営林署は『色・つや・香り』をはこる東濃ヒノキの産地であり、良質の柱材を主体に生産販売を行っている。このような材を生産・販売するにあたっては、『丸太は商品』という意識を強く持って、伐倒から販売まで厳正な材質管理を行い、材価の低下を招くマイナス因子を一つ一つ排除し、知恵を出し合って有利採材・有利販売を行うため、積極的に取り組んでいる。

昭和62年度には商品価値に大きな影響を与えるトビ傷の防止策に取り組み、昨年度は『カビ』・『虫害』対策に照準を合わせ、一定の成果を見ている。

附加価値を高めた素材生産を目指し、葉枯らし乾燥材の生産に取り組んだ。

2. 内 容

(1) 実行方法(表-1)

スギの葉枯らし材の効果についてはすでに実証されているが、人工林ヒノキについての効果は賛否両論があり、さらに効果的な処理方法を模索しているところである。

(2) 販売結果(表-2)

公売での購入先は加子母・中津川と東濃が大半であり、委託では飛騨方向へも流れている。232林班は皆伐ですべてをサンドライで行ったので比較はできない。231林班の、スギ3m柱では普通材31,000円/m³に対して35,000円/m³と効果は見えるが、一般材はほとんど差は出ていない。全体的にはサンドライの方が高くなっているが、顕著な効果は出ていない。

3. 反 省

- (1) 伐倒方法では、スギ複層林の択伐で行ったため十分な乾燥が出来なかった。
- (2) 伐倒時期は、4月下旬にまたがったものもあり、4月～7月は比較的降雨が多く十分な乾燥が得られず、材質低下の原因となった。また、害虫の活動する時期であり、虫害を受けた。
- (3) 伐倒方法については、方向規制が出来ず伐倒木が重なり、乾燥しにくく、曲がりの原因となった。

- (4) 枝払方法では、全部の枝を残した方が有利だが、後の造材・集材の工期への影響を考えたため、残しかたが少なかった。
- (5) 葉枯らし期間は、伐倒時期にもよるが期間が長すぎて、変色・虫害等欠点を招く原因となった。

4. 業者に対するアンケート調査

今後の葉枯らし材生産を効果的に行うため、国有林サイドだけの考えでなく、実際に購入し製品化する業者のニーズや意見を聞くことが必要であり、国有林サンドライについてのアンケート調査を実施した。

アンケートは、当署に取引のある市場2社・製品業者14社、小売業者1社を対象に23項目について聞き取り調査で行った。

これは当署の材にかぎらず、取引いただいた国有林材のすべてを対象にしている。

ヒノキについては、17社の内約半数の8社が購入されており、購入されなかった9社の内7社は新鮮材がほしいという事で、2社は希望はあったが買えなかったという事である。また『はい』と答えた方も新鮮材の方が良かったが、サンドライがあったから買ったという方が多く、葉枯らし効果については全社が『いいえ』と答え、普通材と変わらないか、欠点があったようである。

スギについても十分乾燥していない等、効果は少なかったと答えている。

効果がなかった理由や欠点は、表-3のとおりである。

- (1) 今年と同じようなサンドライを生産した場合に購入されますか？の問いに対してヒノキでは14社中9社が『いいえ』と答えており、『はい』と答えた5社についても、サンドライの効果を期待したものでなく普通材と同じような考えで答えている。

- (2) 材質管理を適正に行い、欠点の少ない葉枯らし材を生産すれば、購入されますか？の問いに対しては、スギ・ヒノキとも14社中10社が『はい』と答えており、その理由は、欠点があれば多少乾燥しているから狂いが少なく、割れにくいということである。

また、普通材より早く乾燥するし、材の取り扱いも軽くて良い物を作れば買っていただけることを確信した。

逆に『いいえ』の理由は、色・つや・香りは新鮮材の方が良く、良い製品が出来るかと答えており、材質の低下を心配しているようである。

- (3) 普通材より有利に購入していただけるか？の問いに対しては、慎重な答えであり材質によっては有利に買えるという事であった。
- (4) サンドライを生産するためには、どの様な方法で行えばよいと考えますか？の問いに対して、伐倒時期は水が上がらない時期、害虫の活動しない時期ということで10月～3月が良く、4

月～9月は良くないところである。

伐倒方向は、上方が良いとの意見が少しありましたが、特に関係ない・わからないが多かった。

枝払い方法は、なるべく多くを残した方が良いということで、葉枯らし期間は、材質低下を考慮してなるべく短い方が良いという意見が多く、冬期間は長くても良いということである。

その他、造材から販売までの期間は極力短かくして早期販売してほしい。樹皮がむけられないようにいねいな材の扱いをしてほしい。との意見もあった。

今回のアンケート調査は、対象業者も少なく地域的な色調も強く、十分な調査でないが、この調査によって業者の国有林サンドライに対する意見や、何を求めているのかが大まかにもつかむことが出き、さらに実行方法について強く反省させられた。これらの調査内容をすなおに受け止め、反省をして今後の取組を考えていかなければならないと考えている。

5. 今後の取り組み（表－4）

- (1) 樹種：人工林スギ・ヒノキ主体の伐区なので、まとまったスギの箇所は時期的な制限の中ですべて対象とする。ヒノキについては、林分内容を検討して行う。
- (2) 伐採種：皆伐で行う。スギの場合は択伐でも行う。
- (3) 伐倒時期：水の上がらない時で、害虫の活動が活発でない時期が良く、七宗地区は9月～8月、下呂・馬瀬地区は9月～10月・3月～4月上旬に行う。七宗地区は雪も少なく、秋から冬が適正と考えられる。
- (4) 伐倒方向：安全面と集材の能率性を考慮して極力横山とするが、事業地の条件によって左右されるので制限しない。
- (5) 枝払い方法：一部枝付きで、樹高の20%程度梢端部を残す。
全木集材を検討し、可能な箇所は全枝を残す。
- (6) 葉枯らし期間：9月～10月伐倒30日（1ヶ月） 11月～4月伐倒60日～70日
ただし馬瀬・下呂地区は、残雪があるため冬は行わない。

林業試験場の資料によれば、夏期・秋期とも葉枯らし開始から30日～40日経過までの期間における含水率低下速度が極めて大きい。また材質低下を考慮して、最少限の日数とするため1ヶ月とする。

冬期の資料はないが、春季の資料から判断して70日以後の含水率低下は少ないと思われる。

7. その他：造材から販売までの期間を短縮するために、小口横で完横し、回転を早くすることによって土場での材質低下を防止する。

6. 最 後 に

今年度始めて葉枯らし乾燥材生産を行ったが、期待した様な結果は得られず、今年度の実行結果の反省を踏まえ、製材流通業者の意見を真剣に受け止め、『国有林サンドライ』のPRを行うとともに、『丸太は商品』という認識をさらに高めて、貴重な一本一本の木からより多くの収益が生まれるよう、有利販売に積極的に取り組んでいきたい。

表－1 実行内容

林班 種別	七 糸 組 当 区 2 3 2 い	〃 2 2 1 ろ	〃 2 0 6 ろ
樹 種	スギ	スギ	ヒノキ
伐採方法	皆伐	択伐	皆伐
数 量	200 m ²	500 m ²	100 m ²
伐倒時期	4月中旬～下旬	4月中旬～下旬	10月中旬～下旬
伐倒方向	横山	規制無し	横山
枝払方法	一部枝付	一部枝付	一部枝付
集材時期	6月上旬	6月中旬 ～ 7月上旬	2月予定
葉枯期間	40～50日	50～60日	80～100日
販売時期	6～8月	6～8月	2～4月
販売場所 (公売)	七糸スケガ谷土場	七糸スケガ谷土場	七糸スケガ谷土場
〃 (委託)	下呂綜合木材市売	下呂綜合木材市売	

表－2 販売結果(スギ材)

林班 種別	サンドライ材 2 2 1		普通材 2 2 1		サンドライ材 2 3 2	
	公 売	委 託	公 売	委 託	公 売	委 託
3.0m 柱 材 (元中)	35,270	27,878	31,054		32,395	25,200
4.0m 一 般 材 (30上元五)	57,878				56,964	
4.0m 一 般 材 (28下元五)	35,236	45,976	40,243		35,238	44,557
4.0m 一 般 材 (中五)		28,880				31,410
3.0m 一 般 材 (中五)	25,155	22,119	26,277		27,371	22,103
3.0m 一 般 材 (13.下)		15,747				15,000
繰上平均	34,689	30,151	30,720		36,808	32,058

表-3 アンケート調査結果

樹種 内容	ヒノキ	スギ
色	心材の色が薄くなる・白ぼくなる・変色	心材の色が良くなる
つや	表面がケバだつ・つやがない	変わらない
香り	なくなる・変わらない	変わらない
重さ	多少軽くなる・軽くて良い 変わらない	軽くて良い 変わらない
乾燥コスト	材が古いだけ損・変わらない	良い・変わらない 半分で済む
運搬経費	材積の取引なので変わらない	軽くて良い 変わらない
大工の評価	カンナがかけにくい・悪い・変わらない	変わらない
鋸のとおり	悪い・堅い・引き曲がりする・関係ない	変わらない

表-4 下呂署における葉枯らし材生産の作業時期

七宗地区

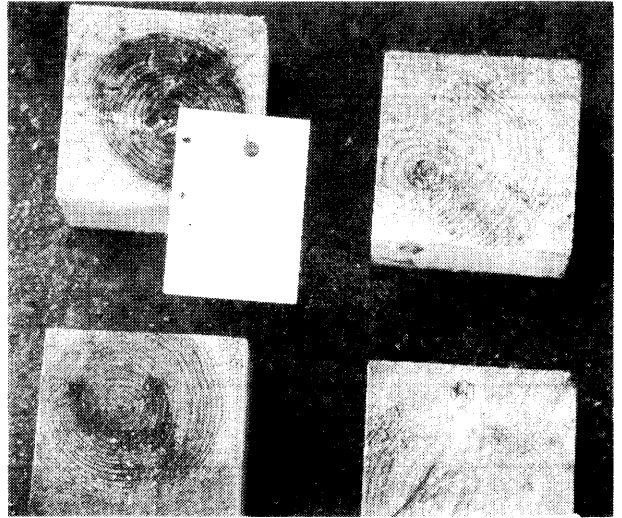
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
作業種												
葉枯らし伐倒												
葉枯らし処理												
造材												

下呂・馬瀬地区

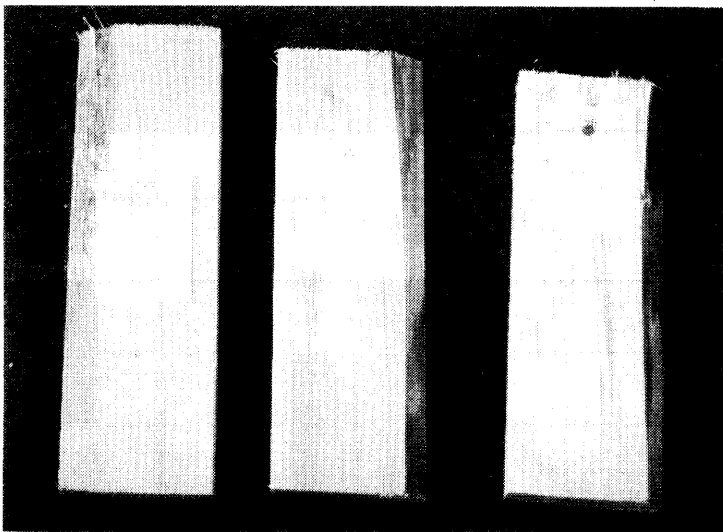
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
作業種												
葉枯らし伐倒												
葉枯らし処理												
造材												



ヒノキ葉枯らし中（10月中旬伐倒）



スギ葉枯らし材の変色



ヒノキ葉枯らし材の変色とカステラ状